

令和四年度

全国吟詠コンクール決勝大会

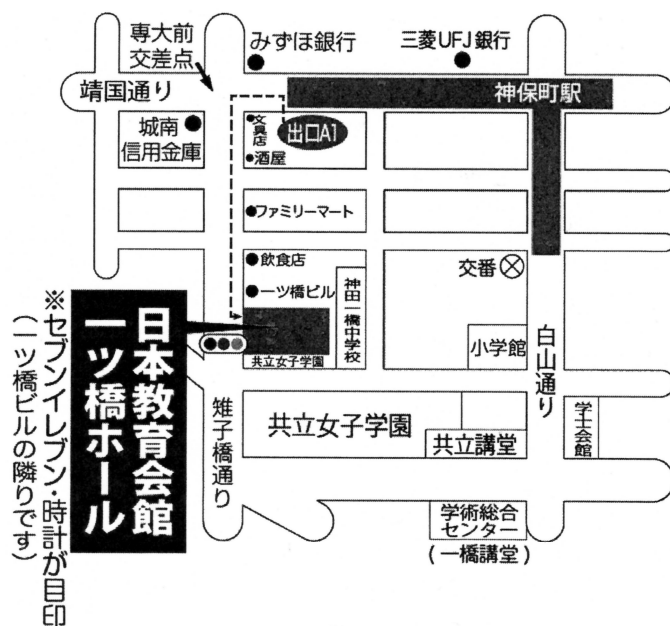
来場歓迎・入場無料

後援
NHK文化庁

- とき 令和4年9月19日(日・祝)
午前9時開場・午前9時30分開始
- ところ 日本教育会館・一ツ橋ホール(裏表紙参照)

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会



日本教育会館・一ツ橋ホール

〒101-0003
東京都千代田区一ツ橋二丁目6番2号 TEL. 03(3230)2831

(最寄駅) ●地下鉄都営新宿線・三田線・東京メトロ半蔵門線
神保町駅A1出口より徒歩約5分

●東京メトロ東西線 竹橋駅より徒歩約5分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電話 (03) 6721-5950 (代表)
FAX (03) 6721-5960

大会次第

- | | |
|------------|-------------------|
| 一、開会の辞 | 一、競吟・一般一部 |
| 一、国歌斉唱 | 一、幼年・少年・青年の部・一般一部 |
| 一、財団会詩合吟 | 審査結果発表 |
| 一、財団代表挨拶 | 一、競吟・一般三部 |
| 一、競吟実施要項説明 | 一、競吟・一般二部 |
| 一、審査委員紹介 | 一、審査講評 |
| 一、競吟・幼年の部 | 一、審査結果発表 |
| 一、競吟・少年の部 | 並びに入賞者表彰 |
| 一、競吟・青年の部 | 一、閉会の辞 |

(注意) 一、役員集合 午前八時三〇分
二、出演者集合 午前九時〇〇分 時間厳守

吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

財団法人 日本吟剣詩舞振興会

会長 笹川良一

ほか 役員一同

財団法人日本吟剣詩舞振興会会詩

笹川良一作

朝に吟に夕に舞うて 心身を錬り
礼節持し来りて 互に真と養う
世界は一家 皆我友
願わくは 斯道と興して 人倫を正さん

笹川良一書

- 一、基本姿勢
吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。
- 二、指導者の心構え
吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては權威をもって臨む。
- 三、師に対する心構え
吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまき、秩序を堅持する。
- 四、分家・独立
吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。
- 五、他流との関係
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎む。
- 六、吟剣詩舞道の普及向上
吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。
- 七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力
吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもつて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。

- 平成十七年度
 - 幼年の部 伊達佳内子(東京)
 - 少年の部 遠藤 衣恵(群馬)
 - 青年の部 仲宗根 香(大阪)
 - 一般一部 榮 葉子(沖縄)
 - 一般二部 堀川 泰司(群馬)
 - 一般三部 山内チヨコ(広島)
- 平成十八年度
 - 幼年の部 西田 伽湖(山口)
 - 少年の部 村上 佳(大阪)
 - 青年の部 空 晴美(福岡)
 - 一般一部 安藤 聖子(愛知)
 - 一般二部 中山紀代志(富山)
 - 一般三部 澤田 明穂(高知)
- 平成十九年度
 - 幼年の部 東本 舞(岡山)
 - 少年の部 竹田 麻美(大分)
 - 青年の部 荒崎 春奈(神奈川)
 - 一般一部 原 優子(兵庫)
 - 一般二部 武 直子(岡山)
 - 一般三部 廣瀬登志夫(石川)
- 平成二十年度
 - 幼年の部 藤吉 瑞季(大分)
 - 少年の部 森田 夏代(鹿島)
 - 青年の部 堂前 優子(大阪)
 - 一般一部 向山 里水(熊本)
 - 一般二部 平松美智子(岡山)
 - 一般三部 横沼 邦男(山口)
- 平成二十一年度
 - 幼年の部 佐藤 百恵(大分)
 - 少年の部 渡辺 真生(福岡)
 - 青年の部 藤井 真美(愛知)
 - 一般一部 空 晴美(福岡)
 - 一般二部 澤頭 翠(東京)
 - 一般三部 松行 清子(福岡)
- 平成二十二年度
 - 幼年の部 近藤 素弘(愛知)
 - 少年の部 西田 伽湖(山口)
 - 青年の部 恒成 育香(大分)
 - 一般一部 向山 人水(熊本)
 - 一般二部 林 潤子(東京)
 - 一般三部 佐藤 弘子(福岡)
- 平成二十三年度
 - 幼年の部 西田 陸人(山口)
 - 少年の部 向山 諒一(熊本)
 - 青年の部 荒崎有紀江(徳島)
 - 一般一部 山岡三千世(兵庫)
 - 一般二部 樋口 康子(奈良)
 - 一般三部 永井 節子(広島)
- 平成二十四年度
 - 幼年の部 西田 陸人(山口)
 - 少年の部 向山 諒一(熊本)
 - 青年の部 荒崎有紀江(徳島)
 - 一般一部 山岡三千世(兵庫)
 - 一般二部 樋口 康子(奈良)
 - 一般三部 永井 節子(広島)
- 平成二十五年度
 - 幼年の部 西部千紗希(岐阜)
 - 少年の部 佐藤 百恵(大分)
 - 青年の部 井戸 隆裕(大阪)
 - 一般一部 中野 博行(大阪)
 - 一般二部 山田 守(大阪)
 - 一般三部 白石多恵子(大分)
- 平成二十六年度
 - 幼年の部 西山 優花(広島)
 - 少年の部 松葉 真緒(大阪)
 - 青年の部 森田 夏代(鹿児島)
 - 一般一部 西岡佐智世(大阪)
 - 一般二部 堺 健次郎(福岡)
 - 一般三部 神崎 建次(愛媛)
- 平成二十七年年度
 - 幼年の部 米澤 早智(長野)
 - 少年の部 寺尾 琳子(香川)
 - 青年の部 村上 佳(大阪)
 - 一般一部 石川 千尋(福島)
 - 一般二部 藤田 忠三(青森)
 - 一般三部 松宮 弘亨(東京)
- 平成二十八年年度
 - 幼年の部 安念美葵子(滋賀)
 - 少年の部 藤吉 瑞季(大分)
 - 青年の部 北川 由紀(広島)
 - 一般一部 宮本ヨサリ(神奈川)
 - 一般二部 中村利江子(香川)
 - 一般三部 原 喜代美(東京)
- 平成二十九年年度
 - 幼年の部 木山 咲良(兵庫)
 - 少年の部 西部千紗希(岐阜)
 - 青年の部 綿谷未由子(三重)
 - 一般一部 岩城 伸子(兵庫)
 - 一般二部 玉越 律子(大阪)
 - 一般三部 山田 守(大阪)
- 令和元年度
 - 幼年の部 宿利 壮平(大分)
 - 少年の部 東 瑞(大阪)
 - 青年の部 向山 諒一(熊本)
 - 一般一部 藤井 真美(愛知)
 - 一般二部 今村 満成(福井)
 - 一般三部 山地 好信(香川)
- 令和二年度
 - 幼年の部 阿部 尊生(東京)
 - 少年の部 山中 七海(熊本)
 - 青年の部 松葉 真緒(大阪)
 - 一般一部 荒崎有紀江(神奈川)
 - 一般二部 石田 義則(大分)
 - 一般三部 竹内 芳子(岐阜)
- 令和三年度
 - 幼年の部 阿部 尊生(東京)
 - 少年の部 山中 七海(熊本)
 - 青年の部 松葉 真緒(大阪)
 - 一般一部 荒崎有紀江(神奈川)
 - 一般二部 石田 義則(大分)
 - 一般三部 竹内 芳子(岐阜)

令和四年度全国吟詠コンクール
決勝大会開催にあたって



(公財) 日本吟詠詩舞振興会
会長 沼崎 富

よりいつそうの
吟道振興を

公益財団法人日本吟詠詩舞振興会主催による、令和四年度全国吟詠コンクール決勝大会が、本日ここに盛大に開催されますこと、まことに喜ばしいことと存じます。

ご来場の皆さまがたに対し、深く敬意を表しますとともに、本大会のためにいろいろのご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しまして深く感謝申し上げます。

吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に「礼と節」を教えるもの

であり、今日までの日本の民族精神の形成において大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられております。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をになう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいことと存じます。

本大会は、これら吟道に親しむ皆様に対し、日々研鑽の成果を競いあう場を与え、併せて、よりいつそうの吟道振興の資とするものであります。

出場者の皆さんにおかれては、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまにおかれましては、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しく理解され、ひとりでも多くの人が斯道に親しむよう期待してやみません。

最後に皆さまのご健康を祈念して、私の挨拶といたします。

令和四年度全国吟詠コンクール決勝大会役員

大会会長 沼崎 富
大会副会長 多田 稔

大会実行委員

池内 賢二 大田 直樹 山田 静将
吉田 魁桜 河野 鶴聲 大本 翠山
大伊達 不朽 藤上 翔山 早淵 鯉将
安田 水鈴 入倉 昭星 藤本 誠堂
清水 錦洲 鈴木 吟亮 田中 国臣
遠藤 晃楓

◎大会特別顧問

山岡 哲山 小幡 神叡 福永 灌霊 藤原 撰楠
矢萩 鳳祥 武田 禧洲 益中 鵬山 前島 昊龍
松岡 萌洲 野中 秀鳳 八代 輝霊 廣重 光風
日置 彩峰 杉浦 容楓 小野光翠扇 山路 泰洲
横山 寿城 山内 正風 向山 侑吟 山本 賀陽
多田 正満 八文字剛洲 安永 江悠 青柳芳寿朗
田中 岳藤 山口 華雋 横山 精真
◎大会参与
山本 兼正 黒田 秀月 熊木 雪洲 後藤 月戈
加藤 紫昇 宮島 神鳳 奥村 精曄 齋木 彩染
木村 鳳鶴 鈴木 洲玉 星野 洲虹 佐々木翠鵬
池田 嶺煌 上久保雪女 石井 桃苑 田中 竜真
松永 悠楓 榊原 静芳 矢澤 風慶 鈴木 凱山
石川 春洋 横田 岳理 星野 紫虹 志塚 心将
佐々木朝鵬 菱谷 彩佑 小林 北鵬 梶 風映

審査委員

◎審査委員長 徳田 寿風
特別審査委員 河野 正明
審査委員 宮川 紫朋 河野 鶴聲 奥村 精曄
和 田 彩楓 清水 錦洲 藤原光伶子
池田 菖黎 前山 紫峰 田畑 水姫
池田 嶺煌

平成二年度

幼年の部 宮本ロザリー(神奈川)
少年の部 田村 勇樹(大阪)
青年の部 菅 美恵子(兵庫)
一般一部 角地 慶子(福岡)
一般二部 滝田 主計(東京)
一般三部 白石 秀雄(東京)

平成三年度

幼年の部 後藤未由子(三重)
少年の部 宮本ロザリー(神奈川)
青年の部 小池 貴子(群馬)
一般一部 鈴木 久子(愛知)
一般二部 森本 治郎(岡山)
一般三部 岩谷 正義(大阪)

平成四年度

幼年の部 池田 拓真(奈良)
少年の部 笹本 若未(愛媛)
青年の部 松葉 和美(大阪)
一般一部 武田志津子(大分)
一般二部 間島 久巳(東京)
一般三部 小崎 定雄(愛媛)

平成五年度

幼年の部 加藤 亜弥(愛媛)
少年の部 池田 拓真(奈良)
青年の部 鈴木 聖子(愛知)
一般一部 須藤 賢二(神奈川)
一般二部 上山 寿子(和歌山)
一般三部 渡辺 盛(東京)

平成六年度

幼年の部 中田 絢子(神奈川)
少年の部 沖野なつ子(兵庫)
青年の部 西岡佐智世(大阪)
一般一部 米本 敬子(岡山)
一般二部 藤原真佑美(大阪)
一般三部 平田 富子(岡山)

平成七年度

幼年の部 本田 皓子(兵庫)
少年の部 高木 早苗(山口)
青年の部 山岡 貴子(兵庫)
一般一部 照井あかし(東京)
一般二部 鈴木 順子(大阪)
一般三部 牧野 静江(兵庫)

平成八年度

幼年の部 池田 篤朗(奈良)
少年の部 今 由香里(大阪)
青年の部 原 弦太郎(兵庫)
一般一部 矢野まつみ(和歌山)
一般二部 藤本 鉄郎(東京)
一般三部 青木 茂(静岡)

平成九年度

幼年の部 井戸 隆裕(大阪)
少年の部 楠本 友見(福岡)
青年の部 北野 晶子(大阪)
一般一部 大木津多代(兵庫)
一般二部 森田 智子(大阪)
一般三部 堤 久代(佐賀)

平成十年度

幼年の部 河野 良宗(福岡)
少年の部 西原麻里子(愛媛)
青年の部 宮本ロザリー(神奈川)
一般一部 山岡 貴子(兵庫)
一般二部 佐藤 弘子(福岡)
一般三部 岡本ヨシエ(栃木)

平成十一年度

幼年の部 後藤 啓佑(三重)
少年の部 井戸 隆裕(大阪)
青年の部 山岡三千世(兵庫)
一般一部 尾崎 富美(大阪)
一般二部 松永真由美(三重)
一般三部 伊藤 昇(愛知)

平成十二年度

幼年の部 西田 陵(山口)
少年の部 河野 良宗(福岡)
青年の部 今 由香里(大阪)
一般一部 市吉万起子(大阪)
一般二部 生方 照代(東京)
一般三部 山戸 康子(大阪)

平成十三年度

幼年の部 大原 侑実(東京)
少年の部 荒崎 春奈(神奈川)
青年の部 林 綾香(東京)
一般一部 長山 祝子(奈良)
一般二部 長谷川照子(愛知)
一般三部 馬場圭一郎(福岡)

平成十四年度

幼年の部 西田 和樹(山口)
少年の部 後藤未由子(三重)
青年の部 鍋谷 明美(大阪)
一般一部 志田 香織(東京)
一般二部 中島 豊(奈良)
一般三部 桜井 進(東京)

平成十五年度

幼年の部 伊藤 雅采(愛知)
少年の部 長坂 理絵(愛知)
青年の部 池田 拓真(大阪)
一般一部 府川有紀子(神奈川)
一般二部 須藤 賢二(神奈川)
一般三部 松尾 泰輔(福岡)

平成十六年度

幼年の部 難波 初衣(兵庫)
少年の部 山本 純子(大分)
青年の部 奥村 由美(東京)
一般一部 土澤なぎさ(栃木)
一般二部 野島 繪未(東京)
一般三部 河島 末松(福岡)

全国吟詠コンクール決勝大会優勝者一覧表

昭和四十四年度 少年の部 綿引 文子(茨城) 青年の部 三好 紀夫(大阪)	昭和四十五年度 少年の部 河野 淳子(福岡) 青年の部 志茂野博善(静岡)	昭和四十六年度 少年の部 和田奈緒美(愛知) 青年の部 西川 多恵(愛媛)	昭和四十七年度 少年の部 青木 重子(神奈川) 青年の部 伊藤 良子(香川)	昭和四十八年度 少年の部 山下佐登子(福岡) 青年の部 荏苒 愛(茨城)	昭和四十九年度 少年の部 岩崎貴代美(東京) 青年の部 赤坂 綾子(大阪)	昭和五十年度 少年の部 八代 美恵(宮崎) 青年の部 園山 順子(福岡)	昭和五十一年度 少年の部 梶川梨江子(広島) 青年の部 田畑 一子(大阪)	昭和五十二年度 少年の部 木村 昌弘(大阪) 青年の部 和田奈緒美(愛知)	昭和五十三年度 少年の部 今中 彰子(岡山) 青年の部 青木 重子(神奈川)	昭和五十四年度 少年の部 武藤 称(長崎) 青年の部 木村 繁雄(東京)	昭和五十五年度 少年の部 畑中 美香(香川) 青年の部 西村 茂(京都)	昭和五十六年度 少年の部 河原 由紀(熊本) 青年の部 河野 淳子(福岡)	昭和五十七年度 少年の部 太田 誠(宮崎) 青年の部 堀井 良美(岐阜)	昭和五十八年度 少年の部 握野 洋子(福岡) 青年の部 戸田 高子(山梨)	昭和五十九年度 少年の部 入江 有希(東京) 青年の部 大森加寿子(香川)	昭和六十年度 少年の部 松葉 富美(大阪) 青年の部 伊藤美智子(神奈川)	昭和六十一年度 少年の部 早川 貴子(群馬) 青年の部 田沢 淳子(神奈川)	昭和六十二年度 少年の部 岩橋輝司子(福岡) 青年の部 鍋谷 明美(大阪)	昭和六十三年度 少年の部 並木 道子(東京) 青年の部 田仲 志帆(愛知)	平成元年度 少年の部 堂前 優子(大阪) 青年の部 西岡佐智世(大阪)	幼年の部 北岡 京子(奈良) 一般一部 小宮千代香(大阪)	幼年の部 松葉 富美(大阪) 一般一部 伊藤美智子(神奈川)	幼年の部 山田 美和(広島) 一般一部 白井万起子(大阪)	幼年の部 河野 淳子(福岡) 一般一部 高久田 充(福岡)	幼年の部 早川 貴子(群馬) 一般一部 美恵(宮崎)	幼年の部 山田 美和(広島) 一般一部 白井万起子(大阪)	幼年の部 岩橋輝司子(福岡) 一般一部 明美(大阪)	幼年の部 並木 道子(東京) 一般一部 志帆(愛知)	幼年の部 堂前 優子(大阪) 一般一部 西岡佐智世(大阪)	幼年の部 松葉 富美(大阪) 一般一部 伊藤美智子(神奈川)	幼年の部 山田 美和(広島) 一般一部 伊藤美智子(神奈川)	幼年の部 山田 美和(広島) 一般一部 白井万起子(大阪)	幼年の部 河野 淳子(福岡) 一般一部 高久田 充(福岡)	幼年の部 早川 貴子(群馬) 一般一部 美恵(宮崎)	幼年の部 山田 美和(広島) 一般一部 伊藤美智子(神奈川)	幼年の部 岩橋輝司子(福岡) 一般一部 明美(大阪)	幼年の部 並木 道子(東京) 一般一部 志帆(愛知)	幼年の部 堂前 優子(大阪) 一般一部 西岡佐智世(大阪)	幼年の部 松葉 富美(大阪) 一般一部 伊藤美智子(神奈川)	幼年の部 山田 美和(広島) 一般一部 伊藤美智子(神奈川)
---	---	---	--	--	---	--	---	---	--	--	--	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

勝部 吼嶺 梅澤 昌峰 阿部 吟鳳 中澤 春誠	蕨 経風 奥脇 嶽津 薦田 南尚 白男川 冽風	高橋 瑞祥 麻生 契春 三橋 吟焯 毛塚 静精	寺嶋 城靖 栗野 電暉 鈴木 海洲 久保田 正峰	小林 岳章 渡 精華 石山 天洲 山下 神燈	小峯 昊苑 丹治 独風 石井 誠紀 室橋 谿月	長谷部 紫昂
-------------------------	-------------------------	-------------------------	--------------------------	------------------------	-------------------------	--------

〈県連代表〉

澤石 峯洲 梅田 錦翠 阿部 清心 佐藤 岳翠	寺嶋 城靖 立身 岳元 館岡 奥鵬 宮川 紫朋	栗野 電暉 高橋 瑞祥 上田 岳美 黒田 秀月	齋藤 心晃 鈴木 海洲 石井 桃苑 清水 錦洲	毛塚 静精 篠崎 興國 小松 獅劍 飯田 報信	入倉 昭星 白井 寛洲 松澤 天楓 北瀬 岳櫻	渡邊 皇洲 後藤 寛洲 堀口 孝心 鉤 正賀	山田 静将 山口 華雋 堀口 孝心 鉤 正賀	古川 壽泉 藤上 翔山 楠部 紘山 北川 哲水	佐藤 翔風 中林 涼風 徳田 寿風 安永 江悠
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------

運営委員

山下 明德 濱田 翠峰 河野 鶴聲 安部 洗壺	伊藤 翠鳳 藤本 誠堂 中武 玲星 向山 侑吟	日向美代峰 金城 岳周
-------------------------	-------------------------	-------------

◎総務委員長

石井 桃苑 榑 裳風 山田 伯峯	同 副委員長 毛塚 静精	同 委員 相田 華鐘(医務担当)
------------------	--------------	------------------

◎資材管理委員長

鈴木 洲玉	同 副委員長 小池 洵風	同 委員 黒田 聖岳 荒井 剛嶺
-------	--------------	------------------

◎受付委員長

齋木 彩染	同 副委員長 小谷野 煌弘	同 委員 星野 紫栄 林 煌彩
-------	---------------	-----------------

◎連絡委員長

佐々木 翠鵬	同 副委員長 梶原 麗修	同 委員 吉野 煌瑤
--------	--------------	------------

— ヌ 七 —

◎司会委員長	同 委員	◎音響記録委員長 同 副委員長	◎会場委員長 同 副委員長	◎賞典委員長 同 副委員長	◎舞台委員長 同 副委員長	同 委員
田中国臣	高柳玄山 湯口岳政	石田鳳章 渡辺錦翔 小林岳章 岡田一穂 奥谷宝昌	須藤紘誓 三枝契憲 小峯昊苑	栗田姚雲 長谷川煌研 田中竜真 藤井伯陵 藤田彦雲	多喜良誠翔 武藤嶺栄 石井誠紀	福田劔鵬 宇井修光

◎賞状作成委員長	同 委員	◎集計委員長 同 副委員長	◎接待委員長 同 副委員長	◎詩文監査委員長 同 副委員長	◎計時委員長 同 副委員長	同 副委員長 同 委員
石井錦文	河西風慶律 長谷川稀泉	中田子鳳 麻生契春 熊木雪洲 山田彩綺 高橋嶺香	滝本紫苑 星野洲虹 中嶋美声	伊藤契麗 中野吟紫 加藤契琵	猿渡柳水 門倉香江 高野詔靈	丹治独風 石川春海 今村契鉅 大山宗鵬

令和五年度全国吟詠コンクール指定吟題

●幼年・少年の部

(絶句編)

- ① 九月十日 (菅原 道真)
- ② 富士山 (石川 丈山)
- ③ 山行同志に示す (草場 佩川)
- ④ 桂林荘雑詠諸生に示す(その二) (広瀬 淡窓)
- ⑤ 弘道館に梅花を賞す (徳川 景山)
- ⑥ 早に白帝城を発す (李 白)
- ⑦ 菊 花 (白居易 易)
- ⑧ 江南の春 (杜 牧)
- ⑨ 春 夜 (蘇 軾)
- ⑩ 偶 成 (朱 熹)

●青年・一般の部

(絶句編)

- ① 常盤孤を抱くの図に題す (梁川 星巖)
- ② 舟中子規を聞く (城野 静軒)
- ③ 辞 世 (吉田 松陰)
- ④ 涼州詞 (王之 渙)
- ⑤ 春夜洛城に笛を聞く (李 白)
- ⑥ 胡隠君を尋ぬ (高 啓)
- (続絶句編)
- ⑦ 絶命の詞 (黒沢忠三郎)
- ⑧ 九段の桜 (本宮 三香)
- ⑨ 絶句(両箇の黄鸝) (杜 甫)
- ⑩ 江楼にて感を書す (趙 嘏)

同 委員

石井 嶺亮 齋藤 風瑛 縣 鷹雪
那須 燈楓

◎広報委員長
同 副委員長

鈴木 吟亮
土方 昊鶴

◎大会本部事務局
事務局 局長
事業課 長代理
総務課 課員

大田 直樹
大塚 政暢
森谷 文子

令和四年度全国吟詠コンクール指定吟題

●幼年・少年の部

(絶句編)

- ① 九月十日 (菅原 道真)
- ② 富士山 (石川 丈山)
- ③ 山行同志に示す (草場 佩川)
- ④ 桂林荘雑詠諸生に示す(その二) (広瀬 淡窓)
- ⑤ 弘道館に梅花を賞す (徳川 景山)
- ⑥ 早に白帝城を発す (李 白)
- ⑦ 菊 花 (白居易 易)
- ⑧ 江南の春 (杜 牧)
- ⑨ 春 夜 (蘇 軾)
- ⑩ 偶 成 (朱 熹)

●青年・一般の部

(絶句編)

- ① 生田に宿す (菅 茶山)
- ② 春 曉 (日柳 燕石)
- ③ 出郷の作 (佐野竹之助)
- ④ 蘇台覽古 (李 白)
- ⑤ 秋 思 (劉 禹 錫)
- ⑥ 望湖楼醉書 (蘇 軾)
- (続絶句編)
- ⑦ 応制天の橋立 (釈 希世)
- ⑧ 書 懷 (篠原 国幹)
- ⑨ 八陣の図 (杜 甫)
- ⑩ 漢 江 (杜 牧)

令和四年度全国吟詠コンクール決勝大会実施要項

(1) このコンクールは、わが国の伝統芸道である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、この「全国吟詠コンクール実施要項」に基づいて実施する。

(2) コンクールは、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	12才未満	12才以上 18才未満	18才以上 35才未満	35才以上 55才未満	55才以上 70才未満	70才以上

(いずれも年齢は令和四年四月一日現在とする)

(3) コンクールの出場者は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会(以下「財団」と省略)が全国八地区連絡協議会に委嘱して行われた(4)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載された氏名者以外のとび込みは許されない。尚、第四十九回全国少壮吟詠家審査コンクール決勝大会に入

選した者、及び少壮吟士として表彰された者はこのコンクールに当初から参加を認められない。

(4) 地区予選大会の名称とその包含地域

- I 北海道地区大会(道央・道南・道北・道東・北紋)
- II 東北地区大会(青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟)
- III 東日本地区大会(山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京)
- IV 中部地区大会(静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重)
- V 近畿地区大会(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
- VI 中国地区大会(岡山・広島・山口・鳥取・島根)
- VII 四国地区大会(香川・愛媛・徳島・高知)
- VIII 九州地区大会(福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄)

120	119	118	117	116	115	114	113
清原厚子	遠藤昌成	井口隆子	足立ゆう子	木戸頌子	山本和彦	加藤永考見	柘植晃子
大分漢江	東京八陣の囃	愛知秋思	愛媛書懐	広島生田に宿す	高知出郷の作	愛知秋思	広島蘇台覽古

125	124	123	122	121
赤塚善夫	高山浩胡	秋田文英	丸山直子	西京子
愛知応制天の橋立	岡山蘇台覽古	東京望湖楼醉書	長野八陣の囃	福島八陣の囃

月刊『吟剣詩舞』ご購読のお願い

月刊誌『吟剣詩舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。
購読料は年間五、〇〇〇円(送料込)です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟剣詩舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

92	野間澄子	広島	蘇台覽古
91	金堀孝行	広島	出郷の作
90	野口節生	神奈川	出郷の作

〈一般二部〉

96	春藤薫於里	大分	蘇台覽古
95	渡邊晴美	東京	漢江
94	吉田美和子	宮崎	漢江
93	高橋恵子	福島	望湖楼醉書

104	丹羽峰子	東京	応制天の橋立
103	瀧下和雄	高知	漢江
102	二井谷建	広島	書懐
101	羽村敏幸	広島	書懐
100	西山美由紀	広島	蘇台覽古
99	多田昌央	道央	出郷の作
98	橋本三千代	愛知	漢江
97	堅田有香	高知	春暁

112	阿部容子	道央	秋思
111	森脇弥生	徳島	蘇台覽古
110	上原誠司	神奈川	漢江
109	尾方美千代	熊本	生田に宿す
108	谷口宏明	佐賀	望湖楼醉書
107	阿部イツ子	大分	秋思
106	東原恵	香川	蘇台覽古
105	鳥居絹子	愛知	漢江

(5) コンクールは次の審査要項によって実施する。

- (イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され財団本部理事会で決定する。
- (ロ) 出吟順は申込後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとする。変更は特別の事由に基づき、大会会長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競吟実施中に限られる。
- (ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定吟題、幼年・少年の部十題、青年・一般の部十題から選び、届け出たものとする。
- (ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定「吟剣詩舞道伴奏集」(以下「指定伴奏テープ」という)の前奏を確認して吟じ始める(吟題は言わない)。出吟前後の敬礼は省略する。
- (ホ) 吟詠時間は二分以内に吟じ終るものとする。
- (ヘ) 指定伴奏テープの本数及び曲目は、あらかじめ届け出た本数及び曲目によるものとし、変更は認めない。
- (6) 次の場合は失格とする。
 - (イ) あらかじめ届け出てプログラムに記載された吟題と異なる場合。

(ロ) 財団刊行の吟詠教本の読み方に基づいて統一され、本年度指定された詩文の読みと異なる場合。

- (ハ) 吟詠の途中で絶句(つかえること)した場合。
- (ニ) 二分を超えた知らせのベルが鳴った場合。
- (ホ) プログラム記載の出吟順番に遅れた場合。
- (ヘ) その他、審査委員長が失格と認めた場合。
- (7) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」(財団内規)によるものとし、発声(声質、技術)、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。上位同点の場合は審査委員長が各委員の意見を聞いて決定する。
- (8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。
 - (イ) 声の美しさ、品性、洪さなどとともに発声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。
 - (ロ) 伴奏曲と調和(音程を含む)しているかどうか。
 - (ハ) 共通語アクセント(わたりを含む)及びガ行鼻音が正確かどうか。
 - (ニ) 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。
 - (ホ) 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

73	72	71	70	69	68	67	66
紀野実知子	寺井修三	中村栄作	尾嶋サカエ	安孫子美佐子	坂倉一成	松村一正	中野澄子
静岡漢江	長崎出郷の作	神奈川出郷の作	愛知 応制天の橋立	山形 出郷の作	三重 出郷の作	東京漢江	広島漢江

81	80	79	78	77	76	75	74
神東伸任	中村利江子	小西勇三	高津啓司	鈴野七郎	大西 静	井上次男	山本啓一
愛媛蘇台覽古	香川春 暁	道央 八陣の囀	岡山 応制天の橋立	神奈川 出郷の作	高知 秋 思	宮崎 蘇台覽古	静岡 出郷の作

89	88	87	86	85	84	83	82
圖子美知代	石川雅健	林 忠男	斉藤幸子	吉川和宏	安藤智津子	藤田忠三	佐瀬錦子
香川望湖楼醉書	香川 蘇台覽古	三重 生田に宿す	道央 出郷の作	東京 書 懐	香川 応制天の橋立	青森 出郷の作	福岡 八陣の囀

- (9) コンクール進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ録画及びテープレコーダー録音は禁止する。
- (10) 本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合がある。
- (11) 入賞者表彰は表彰式典の席上行われ、入賞者数と表彰は左の如くとする。
- (イ) 入賞者数は左記の通りとする。
- (ロ) 出場者には参加賞を授与する。
- (ハ) 各部優勝者は第五十三回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国コンクール優勝者として出演するものとする。
- (ニ) 各部入賞者に、次の賞を送る。

〈幼年の部〉

- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位～五位 会長賞

〈少年の部〉

- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～五位 会長賞
- 〈青年の部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～七位 会長賞
- 〈一般一部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～八位 会長賞
- 〈一般二部〉
- 一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～九位 会長賞

〈一般三部〉

一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
 二位 会長賞・銀メダル
 三位 会長賞・銅メダル
 四位～十位 会長賞
 また、各部優勝者（一位）へ授与する文部科学大臣杯及び会長杯は持ち回りとし、各部優勝者の内から、最優秀者に高松宮妃記念杯（持ち回り）を授与する。

地区別	資格区分						合計
	幼年 12歳未満	少年 18歳未満 12歳以上	青年 35歳未満 18歳以上	一般一部 55歳未満 35歳以上	一般二部 70歳未満 55歳以上	一般三部 70歳以上	
北海道	1	0	1	0	2	2	6
東北	1	1	1	1	2	2	8
東日本	2	2	2	4	5	7	22
中部	1	3	2	3	6	7	22
近畿	0	0	0	0	0	0	0
中国	2	2	2	3	6	6	21
四国	1	2	1	3	6	8	21
九州	2	3	3	4	6	7	25
計	10	13	12	18	33	39	125
入賞	5位	5位	7位	8位	9位	10位	

50	49	48	47	46	45	44	43
上野佳香	北川由紀	徳安秀作	日野邦子	荒崎春奈	坂東有希	小笠原千洋	原田潤一郎
大分漢江	広島蘇台覽古	福岡出郷の作	愛媛望湖楼醉書	神奈川春暁	徳島蘇台覽古	静岡出郷の作	徳島八陣の図

〈一般三部〉

57	56	55	54	53	52	51
工藤文也	渡辺良夫	児玉春雄	草薙賢三	太田武志	阿部香織	中川英和
大分出郷の作	岐阜書懐	島根秋思	香川書懐	千葉生田に宿す	東京生田に宿す	石川出郷の作

65	64	63	62	61	60	59	58
津村恵子	山口文弘	山本俊一	鯨川ひとみ	池田弘隆	赤星キミエ	浮津美津恵	小倉喜久男
長崎忘制天の橋立	神奈川八陣の図	福岡八陣の図	熊本望湖楼醉書	香川出郷の作	愛知秋思	広島出郷の作	東京出郷の作

◎コンクール出場者氏名

〈幼年の部〉

出演順	氏名	推薦	演題	成績
1	綿谷奏音	三重	富士山	
2	西村愛依莉	高知	九月十日	
3	平岡朔	大分	偶成	
4	水多香乃	山形	九月十日	
5	菊井凜人	東京	早に白帝城を發す	

〈少年の部〉

12	諏訪瑠実	群馬	弘道館に梅花を賞す	
11	大野愛桃	愛媛	江南の春	
10	阿部楓生	東京	偶成	
9	小林縁	道央	富士山	
8	岩永克衛	長崎	九月十日	
7	大山桔乃	岡山	早に白帝城を發す	
6	原彩佳理	広島	弘道館に梅花を賞す	

20	柴本佳乃愛	愛知	九月十日	
19	竹川心彩	愛知	偶成	
18	原田愛子	大分	九月十日	
17	妹尾美怜	岡山	九月十日	
16	宿利実生	福岡	九月十日	
15	鈴木愛琉	群馬	江南の春	
14	佐藤亨志郎	大分	九月十日	
13	橋本真希	香川	九月十日	

〈青年の部〉

23	前田紗那	広島	菊花	
22	西部和華	岐阜	早に白帝城を發す	
21	田村冴子	青森	偶成	
24	佐々木楓花	岩手	秋思	
25	本城愛実	大分	出郷の作	
26	塩谷萌乃香	愛知	漢江	
27	山戸春季	愛媛	蘇台覽古	

35	川口寛久	佐賀	秋思	
34	伊達佳内子	東京	蘇台覽古	
33	佐藤朝香	道央	生田に宿す	
32	平岡大輝	広島	蘇台覽古	
31	浅井紗弥	東京	生田に宿す	
30	本田陽彦	福岡	秋思	
29	澁田知佳依	広島	蘇台覽古	
28	大野統也	愛知	出郷の作	

〈一般一部〉

42	山田美和	広島	八陣の図	
41	綿谷未由子	三重	蘇台覽古	
40	久村朋美	福岡	蘇台覽古	
39	白神信子	岡山	出郷の作	
38	佐藤仁美	新潟	蘇台覽古	
37	松本亜矢子	福岡	秋思	
36	中澤宏	茨城	出郷の作	